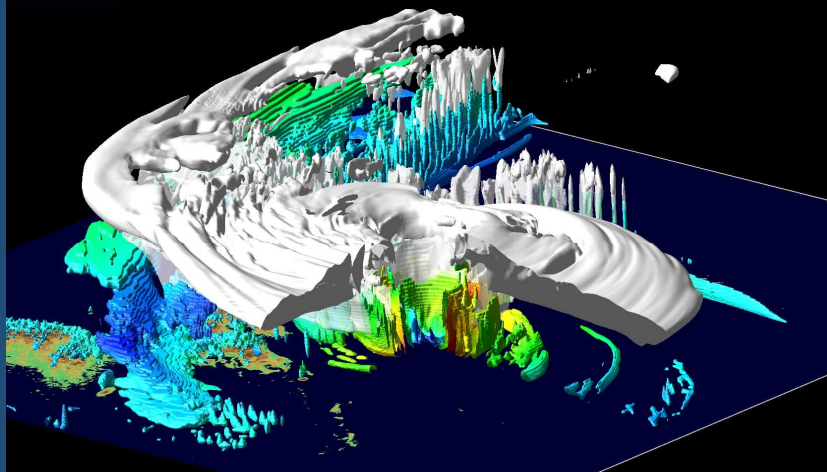


# 防災 講演会 あいち

## 激甚化する 気象の実態



図は名古屋大学宇宙地球環境研究所で開発している雲解像モデルCReSSにより再現された伊勢湾台風の雲と降水の分布を立体的に示したもの。眼から手前の部分は眼と壁雲の立体構造が分かるようにカットしてある。坪木和久氏提供

日時

令和4年12月11日(日)

13:30~16:30 (13時開場)

第1部

異常気象の変化を踏まえた気象情報の利用

講師：中三川 浩(名古屋地方気象台長)

講演時間 1時間程度

第2部

激甚災害をもたらす台風の実態と地球温暖化に伴う将来変化

講師：坪木 和久(名古屋大学宇宙地球環境研究所教授、兼、横浜国立大学先端科学高等研究院  
台風科学技術研究センター副センター長)

講演時間 1時間程度

場所

鯉城ホール (伏見ライフプラザ5階)  
名古屋市中区栄一丁目23番13号

※駐車場はありませんので公共交通機関でご来場ください。

入場無料 (事前予約制)

手話通訳あり

※先着順で定員(280名)になり次第締切ります。  
お早めに名古屋地方気象台へ電話でお申し込みください。  
新型コロナウイルス感染拡大の状況や、大雨・地震等により中止する場合があります。  
中止の場合は、名古屋地方気象台ホームページでお知らせします。  
※体調不良の場合は、ご来場をお控えください。

お申込みお問い合わせ  
名古屋地方気象台

所在地

愛知県名古屋市千種区日和町2-18

TEL

052-751-5124

(受付：平日9:00~17:00)

主催 気象庁 名古屋地方気象台

愛知県

名古屋市

後援 地球ウォッチャーズ - 気象友の会 -

# 講師プロフィールと講演要旨

## 「異常気象の変化を踏まえた気象情報の利用」

名古屋地方気象台長

中三川 浩（なかみがわ ひろし）

昭和62年（1987年）気象大学卒業  
平成11年（1999年）気象庁気候情報課調査官・予報官等  
（異常気象監視、長期予報業務を歴任）  
平成22年（2010年）函館海洋気象台観測予報課長  
平成24年（2012年）気象庁気候情報課気候リスク対策官等  
（気候情報利活用、管理業務を歴任）  
平成31年（2019年）釧路地方気象台長  
令和2年（2020年）気象庁気候情報課異常気象情報センター所長  
令和3年（2021年）名古屋地方気象台長



### 講演要旨

最近、集中豪雨や猛暑など異常気象が増えてきているのではないかと感じている方も多いかと思えます。本講演では異常気象の実態と将来変化、こうした変化に対応するために大切な気象庁が提供する気象情報の利用方法について紹介します。

## 「激甚災害をもたらす台風の実態と地球温暖化に伴う将来変化」

名古屋大学宇宙地球環境研究所教授、兼、横浜国立大学先端科学高等研究院台風科学技術研究センター副センター長

坪木 和久（つぼき かずひさ）

理学博士。専門は気象学。  
北海道大学理学部卒、同大学大学院理学研究科修了、日本学術振興会特別研究員（北海道大学低温科学研究所）、東京大学海洋研究所助手、名古屋大学大気水圏科学研究所助教授、名古屋大学地球水循環研究センター助教授、准教授、教授を経て現在に至る。  
台風や豪雨を主に研究。数値シミュレーションと共に、航空機を用いた台風の観測を行っている。著書に「激甚気象はなぜ起こる」、新潮選書。



### 講演要旨

台風は日本の災害の最大要因であり、地球温暖化による激甚化が懸念されています。しかし台風には未解明な点が多く、強度推定や予報には大きな誤差があります。ここでは台風の実態、地球温暖化に伴う将来変化、そして私たちが取り組んでいる航空機観測などの最新の知見をお話します。